2024 年度　東京学芸大数学教育研究会

1．日時　2024 年 6 月 16 日(日)　10：00 ～ 17：10
2．場所　東京学芸大学 (二十周年記念館)
3．プログラム
(1) 開会の挨拶　10：00～10：05

(2) 専門学術論文発表予定　(発表 15 分・質疑応答 5 分 計 20 分)　10：10～17：10

※教職大学院では，「課題研究」の執筆が必須，修士論文に相当する「専門学術論文」の執筆は選択制となっております.
※課題研究の当日口頭発表はございません．当日二回目の休憩においてポスターセッションを行います.

10:10～10:30　相澤匡紀
空間思考の育成を目指した教材開発に関する研究
-動的幾何ソフトウェアを用いて一

10:35～10:55　五十嵐開智
学校数学における文字の理解に関する研究
-関数 $y = ax + a$ に焦点をあてて-

11:00～11:20　和泉飛鳥
Realistic Mathematics Education の「モデル」を視点とした高等学校数学科の単元設計に関する研究
-再帰関係に着目して-

11:25～11:45　須藤崇匡
中学校数学科における標本調査の教材開発
-統計的リテラシーの育成を目指して-

11:45～12:45 昼休憩　60 分

12:45～13:05　清和隼弥
学校数学における問題設定に関する学習指導の研究
-問題を洗練する過程で働く数学的な考え方に着目して-

13:10～13:30　高増拳生
関数の考えを育成する高等学校数学科の教材開発
-変数の見方に着目して-

13:35～13:55　登野皓志
学校数学における仮説的学習軌道を視点とした授業設計に関する研究
-周期関数を事例として-

14:00～14:20　横山和誉
学校数学におけるパターンの科学としての数学観に基づく探究過程に関する研究

14:20～14:50 休憩（14:20～14:40 ポスターセッション）

【ポスター発表者一覧】
倉澤侑 （課題研究）
数学的探究における仮説設定・検証プロセスを促す教材開発
-表計算ソフトを用いた実験を通して-

新堂絵梨香 （課題研究）
「国際バカロレア　Theory of Knowledge-Area of Knowledge 数学」の授業の枠組みと教材開発に関する研究

柏木光晴 （課題研究）
児童の問いを生かした算数科授業に関する研究

松尾健志（課題研究）
視覚障がい者の 2 次関数の学習過程に関する研究
-触察・ジェスチャー・発話に着目して-

(3) 講 演　（講演 60 分・質疑応答 15 分 計 75 分）　14:50～16:05
稲葉　寿 先生

(4) 閉会の挨拶・諸連絡　16:05～16:10

(5) 近況報告会　16:10～17:10

17：10 終了予定